



令和の時代理科教育を想像する 全小理

全国小学校理科研究協議会
会長 飯田 秀男
(東京都板橋区立金沢小学校長)

社会生活においては、ポストコロナに向けた取組も進み、日常の生活が戻ってきました。GIGA スクール構想に伴う1人1台端末の活用も定着し、より効果的な指導に向けた取組が行われるようになりました。1人1台端末の活用と共に、個別最適・協働的学びの一体的充実など、学び続ける学習者とするための取組が進められています。このような中、全国小学校理科研究協議会第1回理事会を対面で実施することができました。御来賓として出席くださった文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査 有本 淳 様、国立教育政策研究所学力調査官 川上 真哉 様、日本理科教育振興協会会長 大久 保 昇 様、全小理顧問の皆様、また、会場を提供してくださった内田洋行株式会社様には 感謝申し上げます。本理事会において指名・承認をいただき会長の職を務めることになりました。ポストコロナの中、取組の推進を図る重責を感じますが、力を尽くしてまいります。新役員一同、よろしく願い申し上げます。理事会後には、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 有本 淳 様に「新たな理科教育の創造に向けて」という演題で御講演をいただきました。講演の中で、現在の小学校理科教育の課題をふまえ、全小理に期待することとして、「子供自身による問題解決の充実」「指導と評価の計画の充実と周知」「子供の選択によるICTの日常的な活用」「多様な学びの形態」を示されました。『令和の日本型学校教育』においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進め、資質・能力の育成を図ることが求められています。全小理の組織力を生かし、より多くの具体的な実践を積み重ねながら研究を進めてまいります。第57回全小理研究大会広島大会では、大会主題「グローバル社会を生き抜く心豊かな人間を育てる理科教育」を受け、大会の研究主題を「身の回りの自然の事物・現象に自ら関わり、共に学び、問い続ける子どもの育成」としました。

学習指導要領の趣旨が浸透するとともに、1人1台端末が普及し、一人一人の学びが注目される中で、児童一人一人が自ら自然事象に関心を持ち、主体的に問題を解決しようとすることを通して、自ら学び問い続けることを通して、他者や自然などとかかわりを充実させることで、学習指導要領が目指す「3つの資質・能力の育成」を目指すとともに、各都道府県の優れた実践の交流を通して、全小理の活動の振興を図ってまいります。今後も、文部科学省、各都道府県教育委員会、各区市町村教育委員会、全小理顧問、及び日本理科教育振興協会各社の皆様には、変わらぬ御支援、御助言を賜りますようお願い申し上げます。